

志賀原子力発電所の 環境放射線監視結果及び温排水影響調査結果

石川県、志賀町及び北陸電力(株)は、発電所周辺の環境放射線監視及び温排水影響調査を実施しています。今回は、平成20年4月～6月までの環境放射線監視結果「平成20年度第1報」及び平成19年度冬季の温排水影響調査結果「平成19年度第4報」の概要をお知らせします。

環境放射線監視結果については、これまでの測定結果と同程度であり、志賀原子力発電所による環境への影響は認められませんでした。

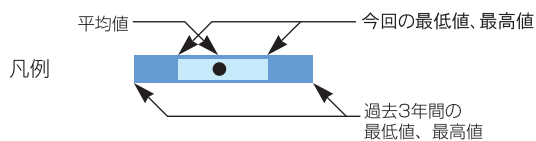
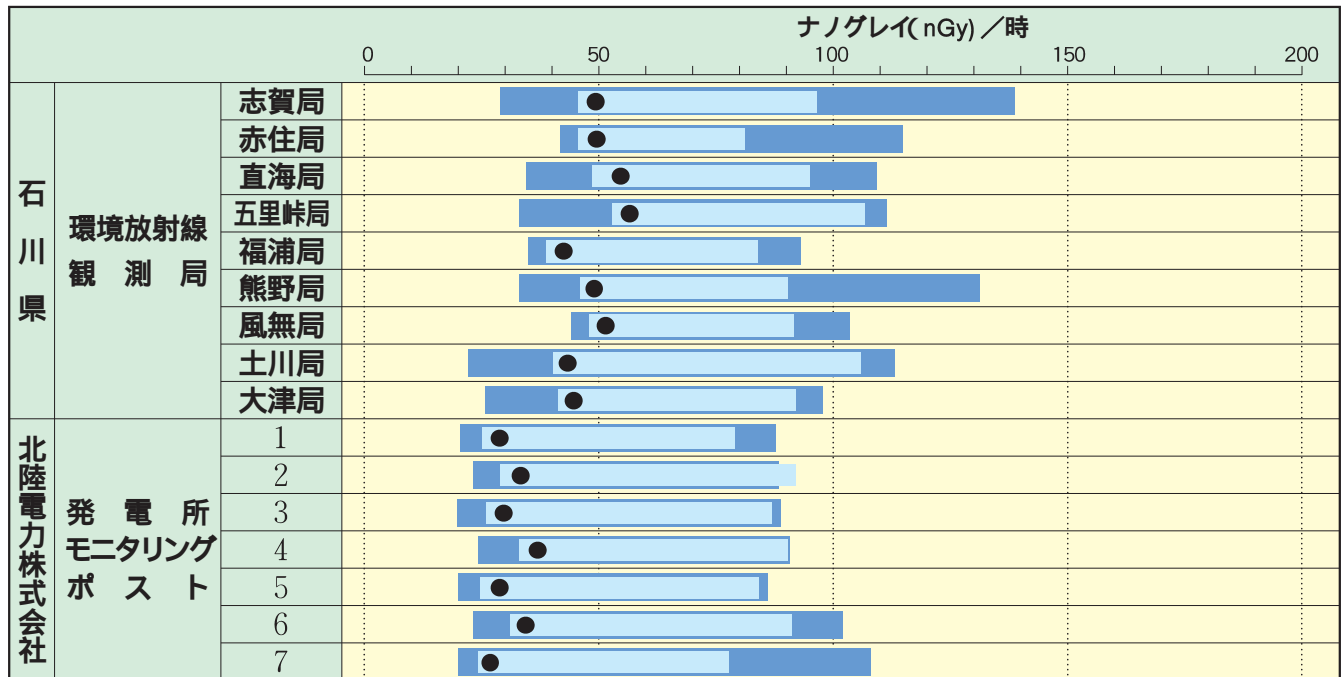
温排水影響調査については、温排水によると考えられる異常な値は観測されず、水温・水質・底質及び海生生物調査では全体として大きな変化は認められませんでした。

I 環境放射線監視（平成20年4月～6月）

1. 空間放射線

① 線量率*

環境放射線観測局(9局)及びモニタリングポスト(7局)における線量率の測定結果は次のとおりでした。各局の線量率の高めものは、いずれも降雨等の自然条件によるものでした。(*線量率とは、1時間あたりの放射線の強さをいい、短時間での変動の把握を目的としています。)



② 積算線量*

モニタリングポイント(45カ所)における積算線量の測定結果は、0.10～0.17mGy/91日で、過去の測定値と同程度でした。(*積算線量とは、3ヶ月間の空間放射線量をいい、四半期ごとの変動の把握を目的としています。)

(参考)

なお、1号機の排気筒モニタデータは5～6cps(H2.7～H20.3までの測定値：5～7cps)、1号機の放水ピットモニタデータは10～12cps(H2.7～H20.3までの測定値：11～15cps)であり、2号機の排気筒モニタデータは5～6cps(H17.4～H20.3までの測定値：5～6cps)、2号機の放水ピットモニタデータは12～13cps(H18.8～H20.3までの測定値：12～14cps)でした。

2. 環境試料中の放射能

環境試料について測定された人工放射性核種は、セシウム-137(Cs-137)、ストロンチウム-90(Sr-90)及びトリチウム(H-3)でしたが、いずれの濃度も過去の測定値と同様に低い値でした。なお、セシウム-137、ストロンチウム-90及びトリチウムは、過去の核実験等によって自然界に広く存在しています。それぞれの放射性核種の濃度範囲は次のとおりです。

試料採取期間 平成20年4～6月		セシウム-137濃度						
		単 位	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	降下物*	ベクレル/平方メートル・月		●				
	浮遊じん*	ミリベクレル/立方メートル	●					
	陸水*	ミリベクレル/リットル				●		
	土壌	ベクレル/キログラム乾土			●	■		
	松葉*	ベクレル/キログラム生			●	■		
	牛乳*	ベクレル/リットル		●				
	地域特産*	ベクレル/キログラム生		●				
海洋試料	海水	ミリベクレル/リットル				●	■	
	海底土*	ベクレル/キログラム乾土				●		
	藻類*	ベクレル/キログラム生			●	■		
	貝類*	ベクレル/キログラム生			●			
	魚類*	ベクレル/キログラム生			●	■		

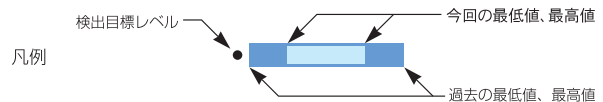
*) 今回は検出目標レベル未満

試料採取期間 平成20年2～3月		ストロンチウム-90濃度						
		単 位	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	土壌	ベクレル/キログラム乾土			●	■		
	牛乳*	ベクレル/リットル	●	■				
海洋試料	海底土*	ベクレル/キログラム乾土			●			

*) 今回は検出目標レベル未満

試料採取期間 平成20年4～5月		トリチウム濃度						
		単 位	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	陸水*	ベクレル/リットル			●	■		
海洋試料	海水*	ベクレル/リットル			●			

*) 今回は検出目標レベル未満



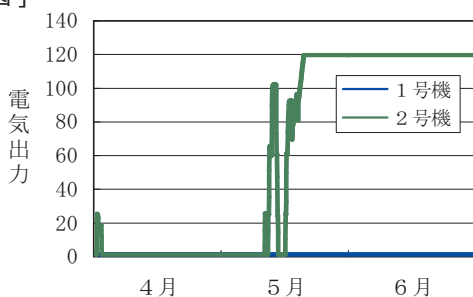
※検出目標レベルとは、検出器の性能、試料の量・形状、測定時間等によって検出できるレベルが違うため、試料ごとに、検出値が有効となる目安として決めているレベルです。

図中で「●」で示したものが検出目標レベルです。

青や水色の横棒がなく、「●」のみが記載されているものは、これまでセシウム-137、ストロンチウム-90、トリチウムが検出目標レベル未満であったことを表しています。

志賀原子力発電所の運転状況（平成20年4月～6月）

[運転線図]

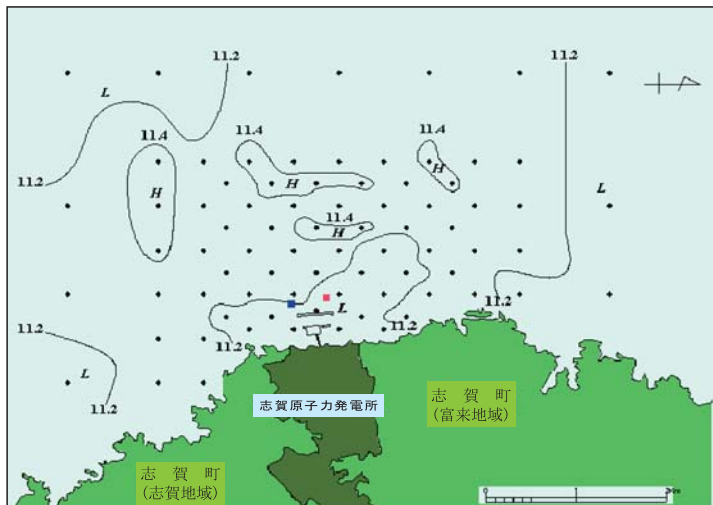


[特記事項]

年 月 日	内 容
(平成19年7月7日)	第11回定期検査開始(1号機)
平成19年	
4月1日	発電機並列(2号機) ※以下、2号機
4月2日	発電機解列(気体廃棄物処理系の水素濃度の上昇に伴う点検)
5月11日	発電機並列
5月12日	発電機解列
5月12日	発電機並列
5月14日	発電機解列
5月16日	発電機並列
6月11日	第1回定期検査終了

II 温排水影響調査（平成19年度冬季）

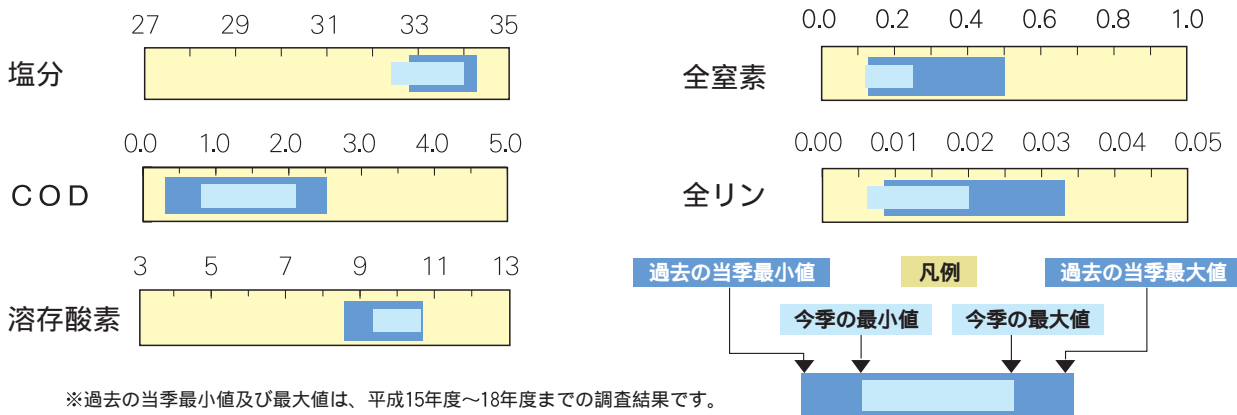
1. 水温調査結果(調査日：平成20年3月27日 午前) 水深1 m



〈温排水の状況〉
 温排水調査期間の3月26日～31日の間は、1号機、2号機は調整運転のため原子炉を起動（循環水ポンプ運転中）していました。

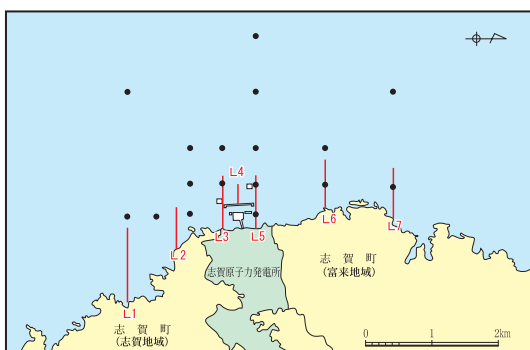
※ ■は1号機の放水口位置、■は2号機の放水口位置を示す。

2. 水質調査結果(採水日：平成20年3月27、30日) (単位：mg/ℓ ただし塩分を除く)



※過去の当季最小値及び最大値は、平成15年度～18年度までの調査結果です。

3. サザエ生息調査結果（平成20年3月22、23、29～31日）



●：水質測定点 |：サザエ生息調査測線

調査測線	水深 (m)	調査面積 (㎡)	調査結果 (平均個数)	過去の調査結果 (平均個数)
L 1	3～20	125	6.4	4.8～12.6
L 2	3～20	125	13.5	7.8～17.0
L 3	3～20	125	10.2	8.6～13.0
L 4	15～20	50	4.5	0.5～1.0
L 5	3～20	125	7.3	4.4～16.8
L 6	3～20	125	14.8	3.8～18.2
L 7	3～20	125	13.6	8.4～33.4

水温調査：水温及び塩分は、これまでの冬季調査と比較すると、水温はやや高く塩分はやや低かったです。同一水深層での温度差は0.1～1.0℃でした。鉛直的には、上下層間の差は、午前小さく、午後は大きかったです。塩分については、同一での塩分差は0.2～1.4でした。鉛直的には、上下層間の差は大きかったです。

水質・底質調査：これまでの冬季調査結果と比較すると、水質調査及び底質調査は、いずれの項目も概ね同程度でした。

海生生物調査：これまでの冬季調査結果と比較すると、イワノリ調査については、湿重量はほぼこれまでの調査の範囲内であり、個体数はこれまでの範囲と比べて多い傾向にありました。植物プランクトン調査では、平均細胞数はやや多かったです。その他の項目については、同程度の結果でした。

以上の内容は、石川県原子力安全対策室ホームページ (<http://atom.pref.ishikawa.jp/>)でも見る事ができます。